

京都府市町村体制づくり支援交付金 自己評価調書

団体名

京丹後市

2. 平成29年度 京都府市町村体制づくり支援交付金事業の個別評価について

支援区分		事業名・実施項目							
公共施設マネジメント		資料館再配置事業							
事業着手前									
課題・現状	<p>網野郷土資料館は、約8,000点を超える、質、量ともに府内有数の収蔵資料を有する施設であり、民俗資料を展示することで、文化財保護の普及啓発を図り、郷土の文化遺産への住民の関心を高めるとともに、歴史を学ぶ機会創出に寄与している。</p> <p>しかし、昭和21年に建造の旧木津小学校校舎を利用した木造の建物は、施設の老朽化が進んでおり、施設を維持するために大規模改修を行った場合、財政負担が大きい。</p>								
事業概要	京丹後市公共施設等総合管理計画に基づき、旧郷小学校校舎へ民俗資料を移転整理する(平成30年4月開館)。								
期待される事業効果等	耐火性のある施設へ移転することで、本市の貴重な文化財の適切な保存・展示が図られるとともに、リニューアルオープンすることで、教育・観光面への一層の活用も期待できる。更に、閉校した校舎を活用することで、施設の有効活用と財政負担の軽減を図ることができる。								
事業実績									
取組状況	本市の貴重な文化財の適切な保存・展示や教育・観光面への一層の活用、財政負担の軽減を図るため、京丹後市公共施設等総合管理計画に基づき、旧郷小学校校舎へ民俗資料を移転整理した。								
主な実績数値 (出来高数値等)	平成30年4月3日開館 約1,000点を「生活」「農業」「織物」「学校」などの分野に分けて展示。 開館時間:火・木・土曜日 9時30分～16時 備品移設手数料:2,031千円、備品購入費:842千円								
期待される事業効果等 に対する達成状況	◎	(左の理由)							
		旧木津小学校校舎を利用した木造の建物から、耐火性のある旧郷小学校へ移転しすることで、貴重な文化財の適切な保存・展示が図れた。また、閉校した校舎を活用することで、施設の有効活用と財政負担の軽減を図ることができた。							
事業効果									
事業効果の考え方	昭和21年に建造の旧木津小学校校舎を利用した木造の建物から旧郷小学校へ移転することで、貴重な文化財の適切な保存・展示が図られるとともに、施設の維持にかかる財政負担の軽減を図ることができる。								
年度	H29	H30	H31	H32	H33				
行革前(a)	1,109	1,109	1,109	1,109	1,109				
行革後(b)	1,109	466	466	466	466				
効果(a)-(b)	0	643	643	643	643				

(記載要領)

単位:千円

- 1 事業毎に調書を作成すること
- 2 「期待される事業効果等に対する達成状況」については、期待される効果を上回ったときは◎、概ね期待どおりの効果であるときは○、期待される効果を下回ったときは▲を記載すること。